



平成20年(2008年)
6/5
第1166号

発行：小平市
編集：環境部
ごみ減量対策課
〒187-8701
小平市小川町二丁目
1333番地
☎042(341)
1211(代表)

市報 こだいら

ごみ処理基本計画 (改訂)特集号

◇小平市ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp> ◇電子メール info@city.kodaira.lg.jp

小平市ごみ処理基本計画(改訂)を策定

循環型社会の形成の推進 ～市と市民、事業者による協働～

廃棄物減量等推進審議委員(検討部会)

小平市ごみゼロを目指した まちづくり基本計画

<平成10年3月>

市民、事業者および市の三者が一体となったごみゼロ社会の形成



小平市ごみ処理基本計画

<平成15年3月>

廃棄物の発生そのものを抑制する循環型社会の形成



小平市ごみ処理基本計画(改訂)

<平成20年3月>

循環型社会の形成推進のため、市民、事業者、市の三者の協働を目指す



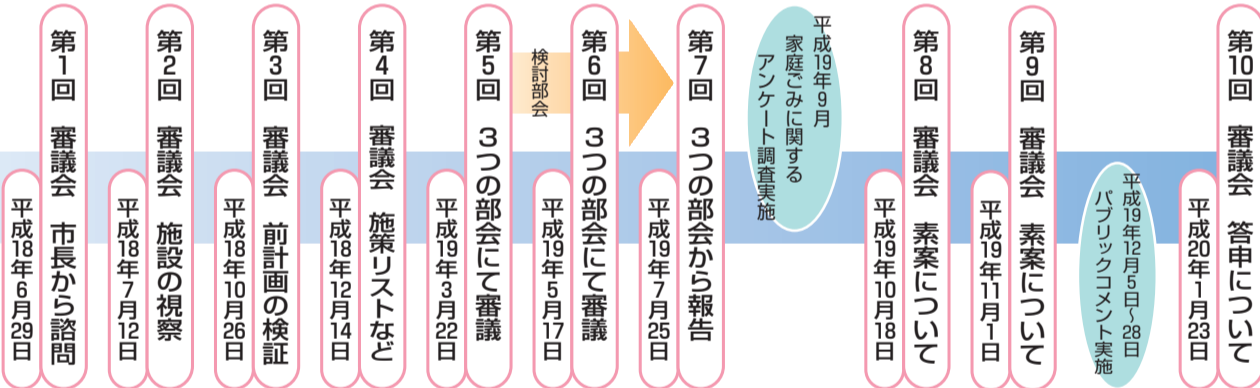
氏名	分野	生ごみ*	容器*	啓発*
後藤弘太郎	学識経験者(会長)		○	
白相 和子	市民公募(副会長)	○		
吉田 康史	事業者(大規模小売店)第3回まで			
池内 哲也	事業者(大規模小売店)第4回から		○	
市川フミ子	市民公募	○		
猪熊 勇一	公益団体(小平商工会)			○
木村 肇	市民公募			○
小池 實	事業者(小平商工会)			○
近藤 幸夫	市民公募			○
紺野 武郎	事業者(再資源化業者)		○	
佐藤 秀夫	市民公募			○
澤藤 聡	市民公募			○
島 京子	市民公募	○		
鈴木 清	公共代表(学校長)		○	
千田 陽一	市民公募	○		
林田 良子	市民団体代表(ごみ減量推進実行委員会)		○	
馬場 悦子	市民公募		○	
福島 和宏	事業者(農業経営者)	○		
藤森 謙作	市民公募			○
藤原 紀子	市民団体代表(生活協同組合)		○	
堀 恵子	事業者(清掃事業協同組合)第4回まで			
池月恵津子	事業者(清掃事業協同組合)第5回から	○		

※は検討部会。

ごみ処理基本計画策定の経緯

平成15年3月の小平市ごみ処理基本計画が、策定から5年を経過したため、このたび改訂を行いました。改訂にあたっては、廃棄物減量等推進審議会に諮問し、これまでの施策の進捗状況や計画の基本的方向性に加え、審議会内に生ごみ資源化検討部会、容器包装検討部会、啓発推進検討部会の3つの部会を設置し、施策の方向性や、市民、事業者、市の役割などについて、それぞれ議論し検討を進めてきました。審議会の答申、パブリックコメントによる市民からの意見を踏まえ、このたび、計画を策定(改訂)しました。

計画策定の流れ



ごみ処理基本計画



ごみ処理基本計画の5つの視点

●発生抑制の具体化

循環型社会を目指し、発生抑制の具体的方策の実現



●循環型社会形成を見据えた取り組み

循環型社会に対応する生活スタイルへの変更



●自主的な取り組みの育成と協働の輪の拡大

「発意」を持った市民や事業者のアイデアに基づく取り組みの推進、協働の輪の拡大



●環境に配慮した社会の実現

環境基本計画に沿った、環境に配慮した社会の実現



●小平・村山・大和衛生組合および構成3市(小平・武蔵村山・東大和市)間の連携の強化

広域連携による資源化およびごみ処理の効率性の向上



※CNG車とは、圧縮天然ガスを燃料とし、ディーゼル車やガソリン車より低公害な車です。

ごみ処理基本計画の数値目標

計画最終年度の平成24年度には、小平市の人口は約18万5千人になると想定されています。

将来のごみ量は微減傾向を示し、計画最終年度ではごみ量は約4万トン、資源量は約1万トン、集団回収量は約3千トンと想定しています。この計画の理念を踏まえ、目標を数値化しました。

計画期間内に目標を達成した場合は、その水準を維持するだけでなく、さらなる削減に努めます。

	現状(平成18年度)	目標(平成24年度)
◆発生(排出)抑制目標		
ひとり1日あたりのごみの総量	859g/人・日	850g/人・日以下
◆資源化の目標		
ごみに混入して排出される資源物の割合	可燃物24% 不燃物21%	10%以下
収集時のリサイクル率	24%	30%以上
◆最終処分量削減の目標		
最終処分量	5,280t/年	5,200t/年以下

